

平成 24 年度 長野県元気づくり支援金
ふるさと再生「旧保高宿まちづくり構想
& フォーラム」事業報告

抜粋版

旧保高宿 今後のまちづくりに向けた 提 言

まちづくりワークショップ&フォーラム開催報告

～保高宿のいいところをさがして、まちの未来を語り合おう～

平成 25 年 1 月

NP0 法人 信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部
ワークショップ参加者一同

目 次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 1 . 取り組みの趣旨 | 1 |
| 2 . 旧保高宿の位置・概要 | 2 |
| 3 . 旧保高宿まちづくりワークショップ&フォーラムの開催経緯 | 4 |
| ワークショップ概要 | 4 |
| 安曇野まちづくりフォーラム概要 | 8 |
| 4 . 今後の旧保高宿エリアのまちづくりへの提言 | 10 |
| 4 .1 わたしたちが見つけた宝の特徴 | 10 |
| 4 .2 宝さがしから気づいたこれからの保高宿のまちづくりのあり方 | 13 |
| 4 .3 まちのかたちに関する提案 ~ゾーンと動線~ | 14 |
| 4 .4 まちづくり 10 の提案 | 19 |
| 4 .5 今後のまちづくりの進め方への提案 | 21 |

1. 取り組みの趣旨

ふるさとウォッキングからウォークラリー、そして…

■ ふるさとを見つめなおす活動

NPO 法人信州ふるさとづくり応援団では、この安曇野に先人たちが残してくれた田園風景や歴史的まちなみを訪ね歩く“ふるさとウォッキング”を重ねてきました。

これまで 15 回開催してきましたが、これがきっかけで、ウォークラリーなどさらに新たな取り組みに発展してきているのが、穂高神社から旧千国街道にかけての「旧保高宿エリア」です。



平成 22 年 3 月 第 8 回ふるさとウォッキング
平成 22 年 11 月 まちなかガイドウォーク

平成 23 年 2 月 あめ市ウォークラリー

平成 23 年 9 月 古本市ウォークラリー

平成 24 年 1 月 ふるさとウォッキングマップ第 2 集発行

平成 24 年 2 月 あめ市ウォークラリー&まちなかガイドウォーク

■ 旧保高宿まちづくりワークショップの趣旨

「美しい山岳と田園風景」のイメージが定着している安曇野市の中には、ほかの地域とも違った「いいところ」があるからこそ、このような取り組みへと発展したと考えられます。このワークショップは、「いいところ」をもっと掘り下げて発見し、そこから見えてくる未来のまちの姿を考えてみようという趣旨で取り組んでいます。

No.8 穂高・保高宿地区

— 千国街道・塩の道の宿場を訪ねて —

◆コースタイム ①待機時間約5分 / 帰路としての最短です。(休憩含まず)。
スタート：穂高神社→約 0.6km * 12 分 → 十王堂→約 0.5km * 10 分 → 井口喜蔵80記念館→約 1.0km * 20 分 → 穂高公園→約 0.7km * 14 分 → 旧岩松屋→約 1.2km * 24 分 → 穂山奥街道→約 0.4km * 8 分 → 穂高駅→約 0.3km * 6 分 → ゴール：穂高神社
【合計】約 4.7km * 1 時間 34 分

【コース地図】

【コース沿線の写真】

- 旧街道沿いのまちなみ
- 穂高神社
- 穂山美術館本館（国登録有形文化財）
- 裏路地の懐かしい風景
- 駅前通りにある石造物群
- 明治 42 年（1909）建立の穂高神社の石造大鳥居
- 見どころがいっぱいの穂高神社
- 明治 6 年（1769）作の穂高神社若主前の大狛犬

2. 旧保高宿の位置・概要

■ 旧保高宿の概要

塩の道とも称される松本と糸魚川を結ぶ千国街道で、松本から数えて3番目の宿場である保高宿には、今でも蔵造りの古民家や老舗の商店、枠形や裏路地等、当時の面影が残っています。

かつては日本海から海産物、内陸からは麻や木綿、木炭などを運ぶ街道の宿として発展。明治後期以降はとくに活況で、養蚕やワサビ栽培の発展と、それを売買する商人たちにより、現在旧道と呼ばれているメインストリートのほか、明科方面へ抜ける狐小路などはとてもにぎわっていました。かつては、多くの人々が行き交う賑わいの空間でもありました。



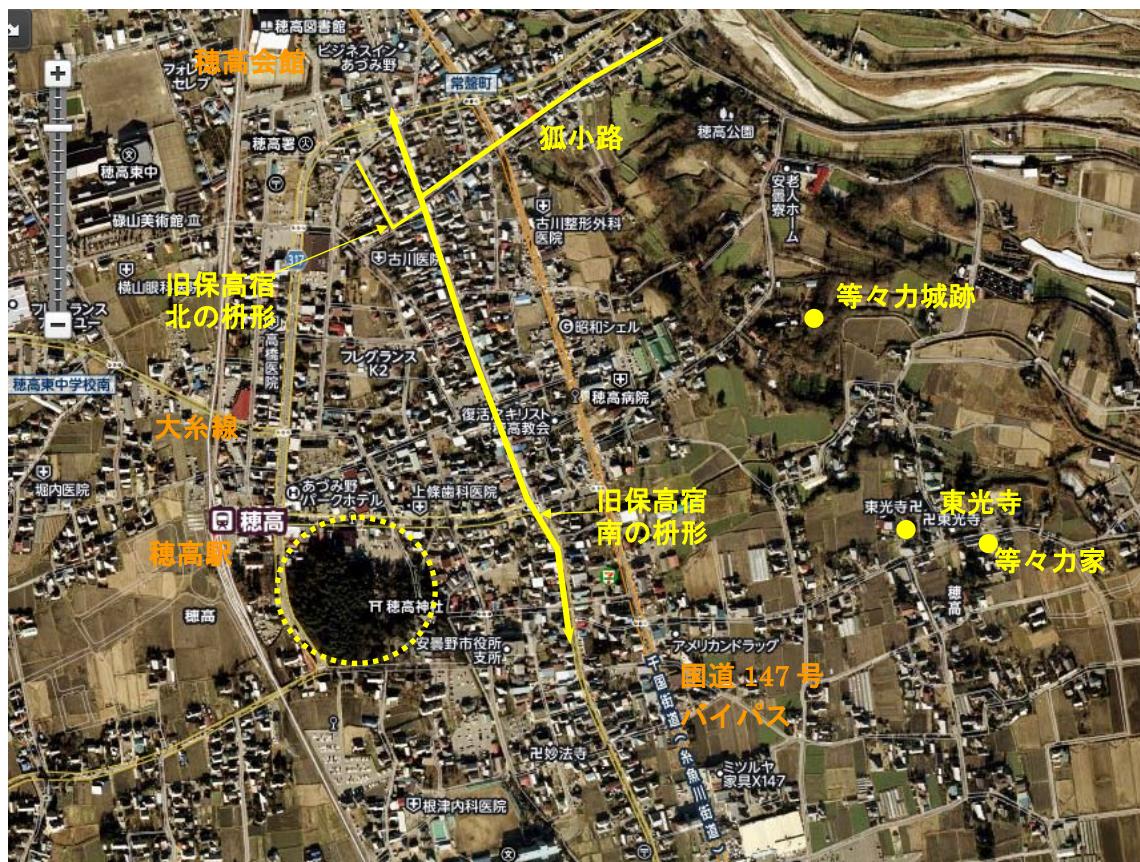
寛政年間ごろの穗高宿絵図(等々力町 二木節利氏所蔵)



■ 対象とした範囲・一帯の歴史的資源等

ワークショップでは、下図のなかでも穂高会館～穂高神社にかけての旧保高宿一帯（南北の枠形ではさまれる区間）を主な対象としました。穂高神社を筆頭に、このなかには松沢求策の生家や土蔵、漆喰壁の建築物などの歴史的な資源が見られます。

また、一帯の歴史を紐解く上では、ここに続く狐小路一帯や、少し離れていますが、等々力城、東光寺についても意識するご意見もあったことから、少し範囲を広げてみていくこととしました。



■ 保高宿に着目する 4つの背景

1. 古くから残るもの価値が再認識されつつある

- 平成12年には文化庁が一帯の建築物を調査
(中央日本塩の道地域連携整備計画調査文化庁調査報告書)
- 宿場の面影が貴重な存在になってきている
市内の古民家調査が始まる(H24~)

2. 人と人の交流を促す場としての新しい価値が生まれてきている

- 貴重さを伝える、活かす取り組みが始まっている
- ふるさとウォッチング、まちなかガイドウォーク
- ウォークラリーの開催
(あめ市では200人以上が参加)
- 空店舗・空き家利用による店舗・古民家再生



3. 古くからのものを継承できなくなる懸念

高齢化の進行と若年層の減少がみられ、語り部・伝え手がいなくなってしまう懸念があります。

〈等々力町区・穂高町区 H13→H20の人口の変化〉

| | 0-14歳 | 15-64歳 | 64歳以上 | 合計 |
|-------|-------------|---------------|-------------|---------------|
| 等々力町区 | 273 →205 | 1319 →1197 | 563 →603 | 2155 →2005 |
| 穂高町区 | 269 →243 | 1131 →1052 | 369 →439 | 1769 →1734 |

4. 古きよきものが壊れ厄介者になりかねない現状

手入れが行き届かず、老朽化してしまったことで、壁材の破損や落下による通行制限も発生しています。

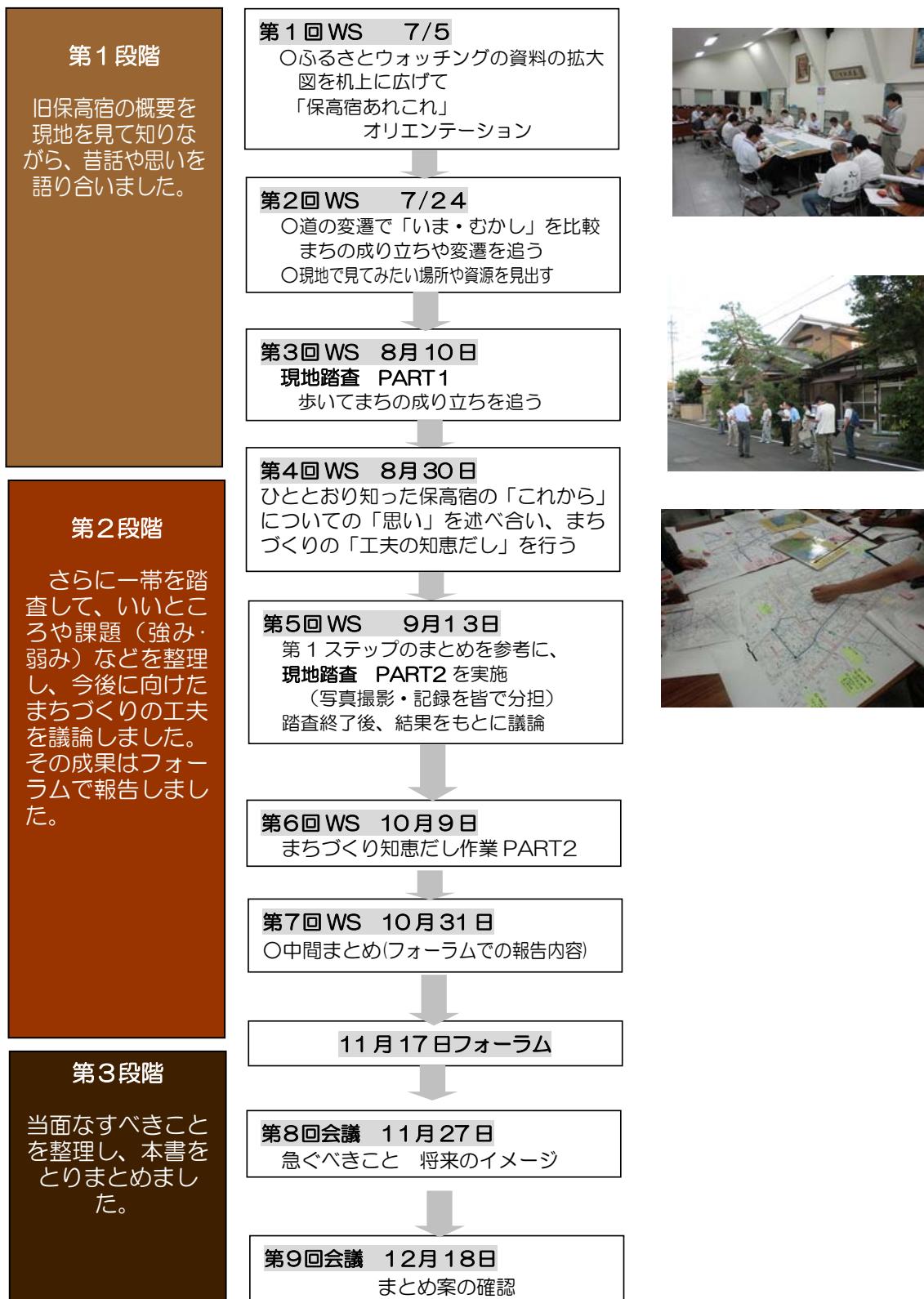


3. 旧保高宿まちづくりワークショップ&フォーラムの開催経緯

■ ワークショップ概要

地元の方々にもご参加いただきながら、平成 24 年 7 月～12 月の間に、9 回開催しました。参加人数は延べ 120 人でした。

下図に示す内容で、3 つの段階に区切って会議を進めました。対象エリアの古い地図を探すことから始め、複数回の現地踏査を経ていいところや課題を整理し、今後のまちづくりの工夫を議論しました。



第1段階 地図や道から成り立ちをたどり現地を眺める

保高宿は、松本から数えて旧千国街道(塩の道)の3番目の宿場。古い地図や写真を使って「道」を追いかけ、現地でその名残を探す作業を通じて、町の変遷を探ってみました。

大正2年の地形図と現在の道路の重ね合わせ



昭和46年の空中写真



大正2年の地形図に平成19年の土地利用を重ね合わせた図



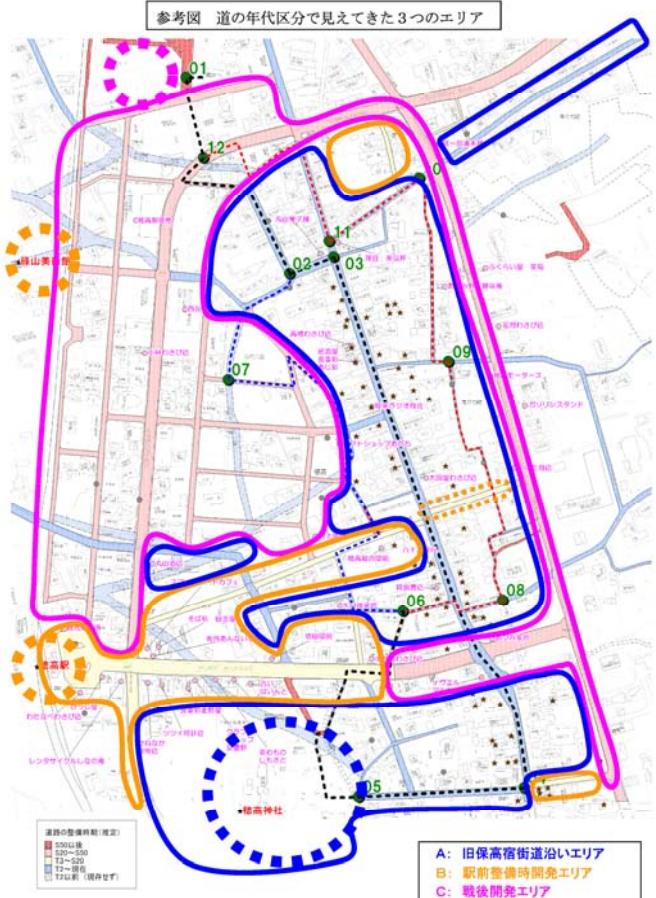


図 道路整備年代によるエリア区分



図 第1段階踏査コース沿道のエリア区分

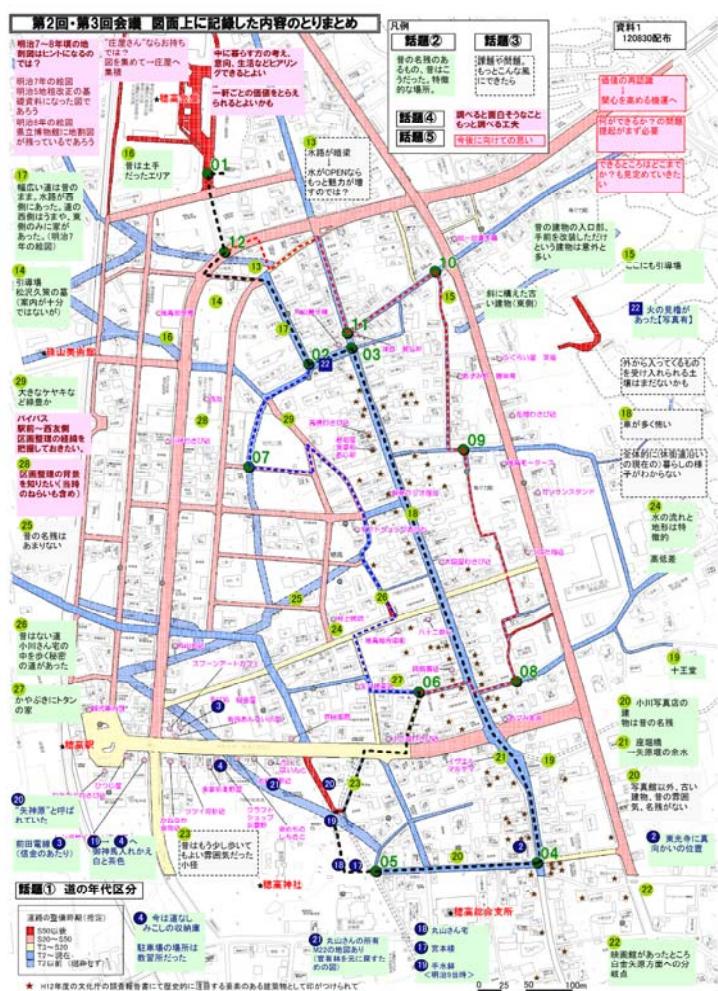


図 第1段階踏査で気付いたこと・思い出話等のまとめ

第2段階 歩いて見つけた 保高宿一帯の特徴・気づいた工夫

歩いて見つけたいいところ・課題のある箇所

現地踏査をしながら、いいところを整理していく中で見えてきたキーワードは暮らし、暮らしのなかで育てられてきた様々な「こと」や「もの」が、時代とともに姿や中身を変えながら、このエリア内にちりばめられるようにみられます。

特徴・いいところ

弱み・課題

| | | | | | | | |
|------------------------------------|-------------|--|------------------------------------|------------------------------|------------------------|---------------|--|
| 水の表情あれこれ 湧き出し 水路 せせらぎ | 水を使う | 裏の景色 宿場町裏からみ ることのできる趣 のある路地 | 暮らし 古くから残る木陰 のある暮らしの道 | 路地・小路 歩く・歩く | 名残 橋の跡 井戸 | 昔の生活基盤 | 踏み出せばそこには田園風景 街から一步外に出れば田んぼ、水路、緑 |
| | | | | | | | |
| 音だけの水路も多いと いう現実 | | 地域の方々のくらしの道 ヨツ者が自由に立ち入れることはばかられる空間 路地付近まで「車」社会 | 解説や案内がないと見難いもの が多く埋もれているのでは? | | | | 耕せない耕作地 荒廃わさび畠 荒廃農地の存在 |

| | | | | | | |
|--|-----------|---------------------------------|--|--|--|---|
| 暮らしの道の宿場の面影・懐かしい建物 土蔵 漆喰 町屋 看板建築 | 住む | 買い物のしやすさ 西友 セリアの存在 | 交通の利便性 徳高駅 高速バス停 | 現代流の暮らし 公園などの公共施設の充実 徳高会館 北城公園 徳高総合支所 町尻公園 | 信仰・祭る・祝う 徳高神社の存在感を知らせる あれこれ 徳高神社お船祭り | 城や寺とのつながり 等々力城：城下町 東光寺：門前町 |
| | | | | | | |
| 連續性に欠ける 各所に分散 価値を感じない地域の住民が多いのでは? 宿場を思わせる「中心」がない | | 旧街道沿いでの営業店舗の 減少 | 旧道の通過、自動車交通の多さ (危険な事故になりかねない 状況) | 活かされていない2公園 | ・「神社」らしい参道がない ・歴史や文化が伝わりにくい ・観光客がここだけでは楽しめない ・歩くことが楽しくなるようなしきけ がない ・山車がひねり歩けるようなみなら、ま ちになっていない | 存在を知らない人が多い 宿場との歴史的なつながりが不明瞭 |

| | | | | | | |
|---|-----------|--|---|------------------------------------|-----------------------|------------------------------|
| 調和のための小さな工夫 狭小路でみつけた「配慮」 プロパンボンベを隠す 格子をつける 板塀を再生する | 住む | 調和させる・活かす 古きよき ものにな じませる、 活かす | 大正ロマン漂う店構え 商店として営んでいるケースは少 なく、維持する必然性が低下する 懸念 | 再利用 古民家を 店舗として 再利用 | まちなか にある信仰 | 伝える 松沢求策 小川大系 他 |
| | | | | | | |
| 助成などの制度が十分にない 古い建物を貸し出すケースが少ない (「活かす」機運が十分ではない) | | | | | 偉人の物語を知らない人が多い | 偉人の話 |

歩いて気づいた今後の工夫

| | | | |
|---|--|---|--|
| A1 水を使う ■まちなかで現代流に水に親しめる 場を生み出す ・水面のみえる空間を年に1箇所ずつ増やす ・駅前に井戸・まちなか足湯 ・水路の「見える化」 | A2 歩く・歩く ■旧街道を歩きやすい空間に変える ・歩道の整備、ハンプなど 補装・幅員のとり方を変える 【通過自動車交通がゆっくり運転してくれるまち】 | A3 暮らしの道 ■伝えるサイン 一見するだけではわかりにくい暮らしの名残は、できる限りサインや案内板で伝える。 | A4 生産 ■放棄された農地の再生・活用 まちなかに程近い荒廃わさび畠を再生もしくは水辺と して活用。 ■緑の散歩道 狭小路から徳高公園に続く道をもっと明るい空間へ。 地元住民、市民、来訪者が喜ぶ散歩道空間へ。 |
| | | | |
| ○修繕・維持への助成・支援 ○危険度調査 ○存在の周知 「古いものが残っているよ」を地元に知らせる | ○自動車交通への制限 行催事開催時に時間通行止め、一方通行の措置をとる 地元の生活者が困らない自動車通行制限であるべき ○明確な「歩くルート」の設定：「回遊の道」設定 ○地元の散歩コースとして共通認識→マナー向上へ ○自転車乗り捨てのしきみ ○歩きながら楽しめるしきけ（踏面タイル等） | ○地元に詳しいこどもを増やす学習 ○見やすい地図 何があるかを伝える地図 | ○徳高神社→旧街道→田園風景に短時間で一周して ふれあえる特色を楽しめるコースや案内 |

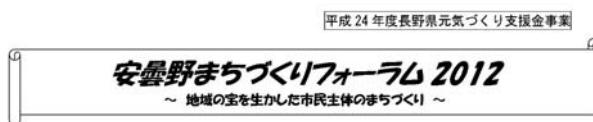
| | | | | |
|---|---|--|--|---|
| B1 住む ■塩の道の宿場の面影・懐かしい建物は できる限りのこし、活用していく。 かつらの土蔵の保存 | B3 旧街道沿いで も「売れるもの」 を売る店の出店 ○若者男女がくらすまち 定住人口増加策 | 現代流の暮らし ■公園改修 まちなか2 公園の役割を 定めた上で改修 | B4 信仰・祭る・祝う ■徳高神社の表参道を ■灯籠等の位置の見直し ■徳高神社駐車場の位置 →総合支所側へ ■山車がひねり歩けるよう な街・道の構造への転換 | B5 伝える ■インフォメーションセンター ■語り部が集い・交流できる拠点 |
| | | | | |
| ○古い街並みとの調和を意識して建 物や外構をつくる・維持する プロパンボンベを隠す 格子をつける 板塀を再生する | ■閉鎖気をかもしだす工夫 屋号を掲げる 電線の（みえ）ないまち 電線セットバック | ○生活の負担にならないよう昔の店舗の残し方 ○人々が集い行きかうしきけを展開 イベント 軽トラ市、宿場サミット ストリートパフォーマンス ライトアップ、あみ市 ○空店舗の活用への助成 店舗で現代流の魅力ある商品を振る ○昔なつかしいものを売れるまち ○買い物需要の発起起こし 貸し手と借り手、売り手と買い手のニーズの把握と調整 | ○穗高神社→保高宿をめぐるようなしきけ 買い物を楽しむ 歴史を知る・学ぶ 等 | ○語り部の養成 ○おじいちゃん先生・おばあちゃん先生 ○読本・DVDなどによるデータベース ○学校との連携による「地元学習・ 地元体験」 穂高商業の生徒が丸山栄子舎で栄子づくり体験 等 |

■ 安曇野まちづくりフォーラム概要

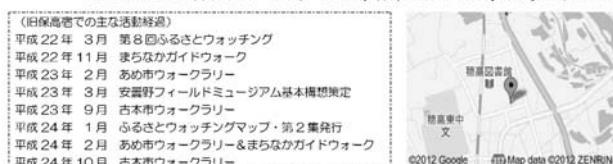
平成24年11月17日に穗高商工会館にて安曇野まちづくりフォーラムと題して、ワークショップでの検討報告も兼ねながら、実際にまち歩きを体験しながら市民主体のまちづくりについて考えるフォーラムを開催しました。

安曇野及び松本エリア一帯で古民家の再生や歴史あるまちなみの再生に携わる建築家川上恵一さんによる「まちづくりは宝探しだ！」の基調講演を受け、旧保高宿界隈を参加者一同で散策し、そのお宝度を評価しました。

その評価の結果と旧保高宿まちづくりワークショップでの検討の報告を踏まえ、パネルディスカッション「地域の宝を生かした市民主体のまちづくり」を行いました。



| | | |
|----------------|---|--|
| 【日 時】 | 平成 24 年 11 月 17 日 (土) 13:00 ~ 17:00 | 安曇野市商工会館高支所 |
| 【内 容】 | 【基調講演】 | 「まちづくりは宝探しだ！」 川上 恵一 氏 (有)かわかみ建築設計室 |
| | 【事例発表】 | 「旧保高宿周辺のまちづくりに向けて」 |
| | 【まちなみウォーク】 | 「旧保高宿まちなみ散策」 |
| | 《パネルディスカッション》 | 「地域の宝を生かした市民主体のまちづくり」 川上 恵一 氏 (有)かわかみ建築設計室 鈴木 幸佳 氏 (NPO) ぐるったネットワーク大町 等々力 秀和 氏 (NPO) 信州ふるさとづくり応援団 |
| 【主 催】 | NPO 法人信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部 | |
| 【共 催】 | 安曇野市歩いて楽しむまちづくりプロジェクト研究会、安曇野市商工会館高支所 | |
| 【後 援】 | 長野県、安曇野市、安曇野市教育委員会、安曇野環境市民ネットワーク、信濃毎日新聞社、市民タイムス | |
| 【協 力】 | 安曇野まちなみぎれいプロジェクト安曇野百選プロジェクト、屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト、長野県建築士会安曇野支部、安曇野案内人俱乐部、穂高町区、等々力町区 | |
| 【問合せ】 | NPO 法人信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部 〒399-8304 安曇野市穂高柏原 1132-2 (有) ライフポート安曇野内 TEL 0263-81-1325 (平日 9:00~18:00) URL http://npo-furusato.way-nifty.com/azumino | |
| 【旧保高宿での主な活動経過】 | <p>平成 22 年 3 月 第 8 回ふるさとウォッティング 平成 22 年 11 月 まちなみガイドウォーク 平成 23 年 2 月 あめ市ウォーカリー 平成 23 年 3 月 安曇野フィールドミュージアム基本構想策定 平成 23 年 9 月 古本市ウォーカリー 平成 24 年 1 月 ふるさとウォッティングマップ・第 2 集発行 平成 24 年 2 月 あめ市ウォーカリー＆まちなみガイドウォーク 平成 24 年 10 月 古本市ウォーカリー</p> | |



平成 24 年 11 月 17 日

安曇野まちづくりフォーラム 2012

～ 地域の宝を生かした市民主体のまちづくり ～

13:00～【開会】

13:15～【基調講演】
『まちづくりは宝探しだ！』
川上 恵一 氏 (有)かわかみ建築設計室

14:15～【まちなみウォーク】 旧保高宿まちなみ見学

15:45～【事例発表】
『旧保高宿周辺のまちづくりに向けて』
藤村 忠志 氏 (株) KRC

16:15～【パネルディスカッション】
『地域の宝を生かした市民主体のまちづくり』
パネリスト：
川上 恵一 氏 (有)かわかみ建築設計室
鈴木 幸佳 氏 (NPO) ぐるったネットワーク大町
等々力 秀和 氏 (NPO) 信州ふるさとづくり応援団
コーディネーター：
宮崎 崇徳 氏 (NPO) 信州ふるさとづくり応援団

17:00 【閉会】

MEMO

NPO 法人信州ふるさとづくり応援団

■第1部 基調講演 「まちづくりは宝探しだ！」 川上恵一氏

基調講演では、保高宿にある古川邸の再生の設計に携わられた川上恵一さんに「まちづくりは宝探しだ」という演題でお話いただきました。

まちづくりで一番大事な宝は何でしょうか？という問い合わせから始まり、前半では、まちの宝探しの着眼点やポイントをお話いただいた（右下資料参照）きました。第2部の保高宿の散策（まちなみウォーク）のヒントをいただきました。

続けて後半では、ご自身が関わられた松本市の城下町の成り立ちと町並み、中町や繩手通りの再生における技術的な工夫などのお話を、スライドを交えて紹介いただきました。

■第2部 まちなみウォーク

第2部では、実際に現地に出て、参加者の皆さんに保高宿エリア一帯の宝探しを体験いただきました。

2班に分かれ、道案内程度の簡単なガイドのもと第1部の講演内容を踏まえながら、参加者の皆さんに歩いていただきました。

旧街道と西側の裏通りを巡るコースを8つのエリア分け、まちのなかのお宝としての印象を4段階で評価し、一人ひとり右のような表に記入いただきました。結果は第3部開始前に集計し、パネルディスカッションの参考資料として用いました。

■第3部 パネルディスカッション

【パネラー】

川上惠一 氏（有）かわかみ建築設計室

鈴木幸佳 氏 (NPO) ぐるったネットワーク大町

等々力秀和 氏 (NPO) 信州ふるさとづくり応援団

【コーディネーター】 宮崎崇徳氏

(NPO) 信州ふるさとづくり応援団

第1部の講演、第2部のお宝度チェックを兼ねたまちなみウォークの結果を踏まえ、地域の宝を生かした市民主体のまちづくりをテーマに議論いただきました。

【討論の要点】

- まちづくりはひとづくり、人はまちづくりの宝。だからこそ、間を取り持つ役目を果たす市民団体では、まちでがんばっている人たちを引出す役割が大事。「あなたがいないとできないのよお」という気持ちが大事。
 - まちを歩いて見えるものだけでなく、見えないものを探すことも魅力のひとつ。
魅力の気付き促す、記憶を呼び起こすきっかけ（装置）として建築、祭り、地名などがある。
 - ここに暮らす人が満足できるまちに。そのためにも得意分野をもつ人々の緩やかな集合体を形成していくけるとよいのではないか。

| お宝印 番 ランク | A お宝 さくざく | B お宝 そこそこ | C お宝 ちよちよこ | D お宝 ないない | 丸印をつけた理由 気づいた事など |
|-----------------|--|-----------------------|---|-----------------|---------------------|
| | この問題は、ウォーク替り後回収し、ハカルディスクカッティングの歩きとさせていただきます。 | | | | |
| エリアNO (※) | [記入欄] | <input type="radio"/> | 1~8のをカラーアイコンがA-Dのいずれの印番に近いか、判断して、近いもの1つに〇をつけてください | | |
| 1 | | | | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |

※エリア番号はA3カラーの地図の青い番号と対応します

□□□
Bや心のお宝を活かしたり、磨いていくにはどうすれば良いと思いますか?
ご意見やご提案等がある方は自由にお書きください。

□□□

■ご自身のことをおかせください。(該当するものの1つに〇印をつけてください)



4. 今後の旧保高宿エリアのまちづくりへの提言

ワークショップでは、田園に囲まれたまちなかの「暮らし」に根ざした地域の宝がいろいろと、あちこちにあることを発見し、これを活かす今後の工夫を考えることができました。

フォーラムでは、「その宝を活かすのは人」であり、そこに暮らす人たちが、暮らしに息づく宝を掘り起こして進めるまちづくりが理想の姿であることを感じました。

一方で、この理想に到達するには、性急な方法は避け、段階を踏んで徐々に進めていくことが必要だと感じました。

ここでは、これらの気付きや発見の詳細を、わたしたちから安曇野市民、行政のみなさんに向けた提言として改めてまとめました。

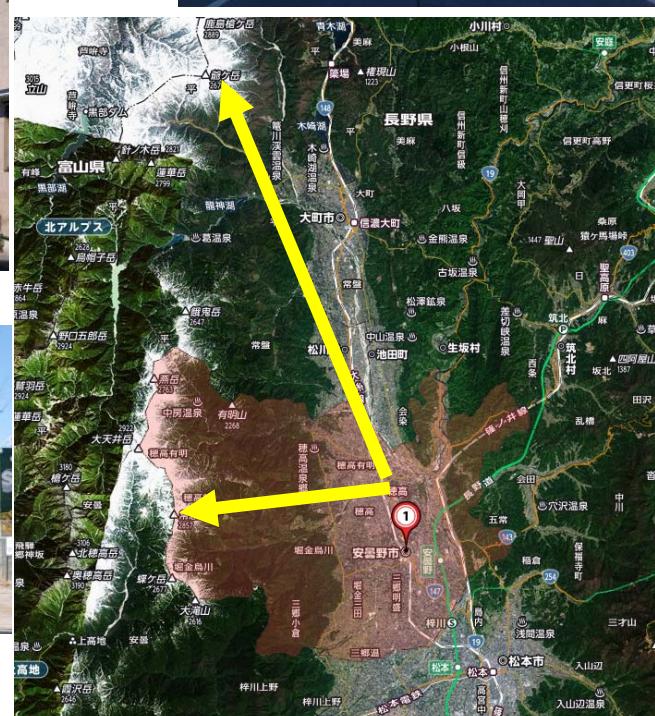
見つけた宝の特徴、これをふまえた今後のまちづくりの方向性、具体的な取り組みの提案等の順に整理しています。

4.1 保高宿でわたしたちがみつけた宝の特徴

このまちの土台は 山と水。山と水がおりなす舞台!

(1) 山並みのみえるまち

北西方向では爺ヶ岳、西方向には常念岳、有明山などエリア内各所から北アルプスの山並みを望むことができます。



(Yahoo!口コ 空中写真)

(2) 水の流れで形作られてきたまち

山岳からの恵みである水は生活の根源。様々なスタイルで水をまちのなかで用いています



生活様式が変わり、山と水のおりなす舞台そのものが変化してきているようです。

- ・水の便がよくなる → 水路はふさぐ
- ・車が必需品 → 道路が舗装でかさ上げされる
→古建物は位置が低くなり、建物のつくりを変え
ていかなくてはならない



舞台の上での暮らしには 祭り、祈り、祝いや弔いの場があり
そのなかで多くの偉人が輩出されてきている

(4) 信仰からくるものがあちこちに

このエリアでは、穂高神社が生活の中の信仰や地域のつながりをつくりだす重要な存在。ほかにも道祖神、十王堂など様々な信仰の証が目に留まります。

さらに、小川大系はじめ、様々な偉人たちも輩出しています。



しかし、少子化、高齢化 舞台に暮らす世代も変わることで、
このような祭りや信仰についての意識も当然のことながら変化してきています。

舞台の上で展開する人々の暮らしやその姿には
裏と表 懐かしさと新しさ 様々な時代の流れが複雑に交じり合っている

(5) 懐かしいもの
新しいもの



(6) 表と裏



これらは、ゆっくりの時代の文化とスピードの時代の文化のせめぎ合いのなかで、残ってきたり、再生されてきたものです。

どちらか一方の価値だけでつくりあげることは難しく、そのバランスの取り方がこれから時代には欠かせません。

4.2 宝探しから気づいた これからの保高宿のまちづくりのあり方

私たちの活動を通じて、「お宝の成り立ちやその変化に気づいて、多くの人たちで共有していくことが大切」だということを再認識しました。

これを実現させていくためには、次のような観点にたったしきみやしきけが必要と考えられます。

- ゆっくりとしたスピードのなかで気づきや記憶を呼び起こすしきみ（※）が重要。（保高宿を伝える物語、建物・雰囲気の演出、名残・痕跡の案内等）
- そのしきみを活かして、より多くの人が気づき、思い出し、発見できるような機会が生み出されていくことが重要。
- そのしきみを動かし、機会を提供するうえで重要なのは人。関わる人の交流、まちを支える人づくりが不可欠。

これらの点とお宝の3つの特徴を踏まえ、次の考え方沿ったまちづくりを提案します。

お宝の3つの特徴

○このまちは山と水がありなす舞台のようだ！

○その舞台の上での暮らしには 祭る、祈る、祝いや弔い が息づいている（暮らしに息づいた魅力がある）

○暮らしには、裏と表、懐かしさと新しさなど、様々な時代の流れや背景が複雑に交じり合っている

■宝を探せて、そこに気づき、いかせるまちの形に

→歩いてゆっくりと暮らして楽しめるまちへ

■穂高神社は切り離せない存在

ここに由来しつながる「暮らし」がいつまでも息づく流れを

→暮らしと共存するお宝が受け継がれるまちへ

■いろいろが交じり合うまちだからこそ、人と人も多様に交じりあえるしきけのあるまちに

→まちづくりと人づくりでさらに魅力あるまちへ

(※) このようなしきみの先進的な取り組みとして「文化資源マネジメントによるまちづくり」があげられます。文化財指定などを受けていないような地域の資源の魅力を、テーマやストーリーで整理し、語り伝えるしきけ、しきみを構築するまちづくりの手法です。

（巻末に山口県萩市等の事例を添付しました）

4.3 まちのかたちに関する提案 ~ゾーンと動線~

1. 歩いてゆっくりと暮らし楽しめるまちづくり
2. 暮らしと共存するお宝を受け継ぐまちづくり
3. 魅力をさらに高めるまちづくりと人づくり

1. 歩いてゆっくりと暮らし楽しむまちづくり

様々な時代の名残の中で様々な暮らしの速度が入り混じっているエリアです。宿場の面影を残す様々な古きよきものを現代流に活かすゆったり・ゆっくりした空間をエリアの中心に据え、その外周に「速く」移動できる空間を配するまちづくりを提案します。

エリア内にある様々な時代を伝え残す場（穗高神社、碌山美術館、旧保高宿、わさび畑・田園、東光寺・等々力家）などをめぐることに意味を持たせ、相互に結び、「安曇野を満喫できる保高宿回廊」を意識したまちづくりを提案します。

2. 暮らしと共存するお宝を

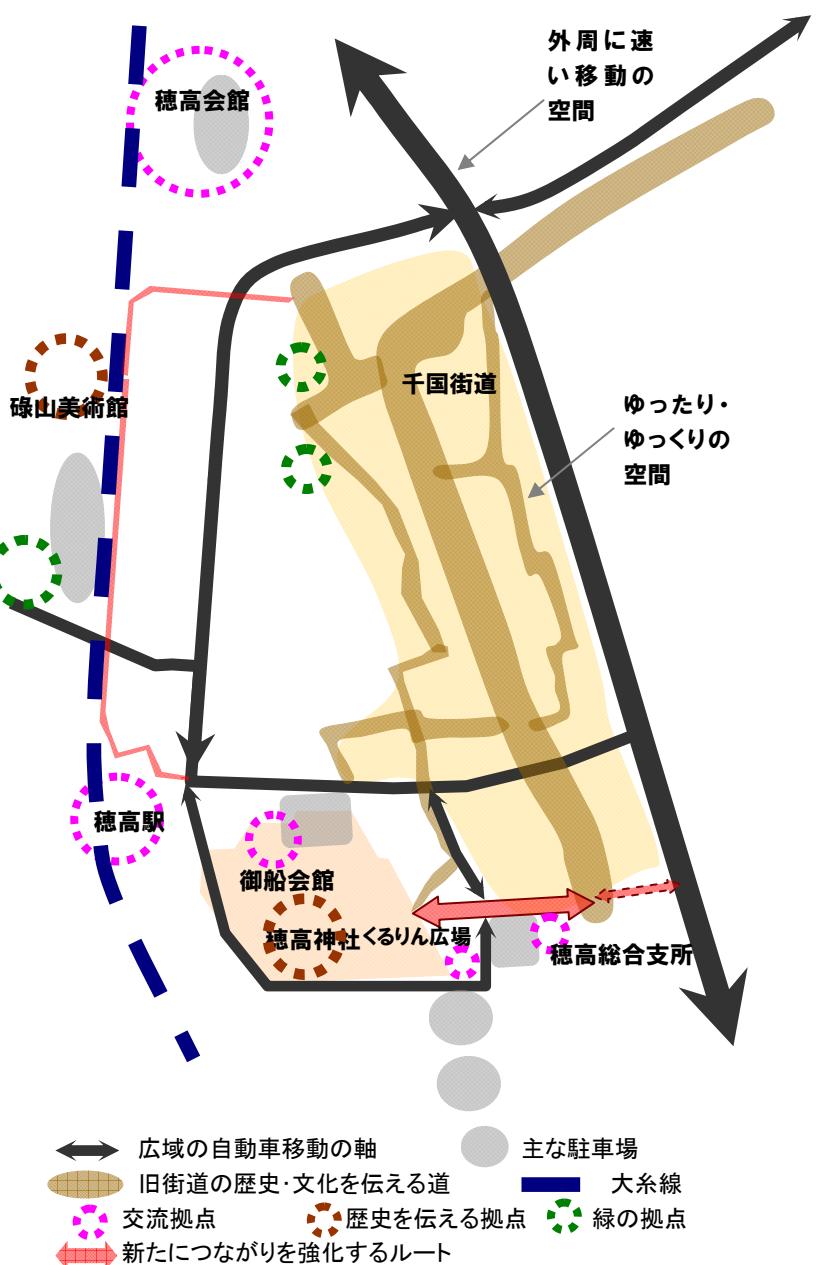
受け継ぐまちづくり

エリア内の広場や、眠っている建物、施設などを活かし、このエリアに暮らす方々同士、市民同士の交流のポイントや場を生み出すことを提案します。

3. 魅力を高める

まちづくりと人づくり

巡ってまわる回廊の魅力を高めるため、プラスアルファとなる演出や、「まちづくり」の考えに沿ったまちなみづくりの取り組みを進めることを提案します。



旧街道沿いまちづくりの概念図

■ゾーン

旧街道とこれに関連付く道沿いとその裏通り一帯を旧宿場の面影を残すひとつのまとまりとしてとらえます。

できるかぎり、このエリアに残る昔の面影を保つことを前提に考えます。

そのまわりに新たな町、その下流側にわさび畑エリア、水田エリアと続く環境をそのまま維持する形のまちをイメージします。

面・エリアの区分

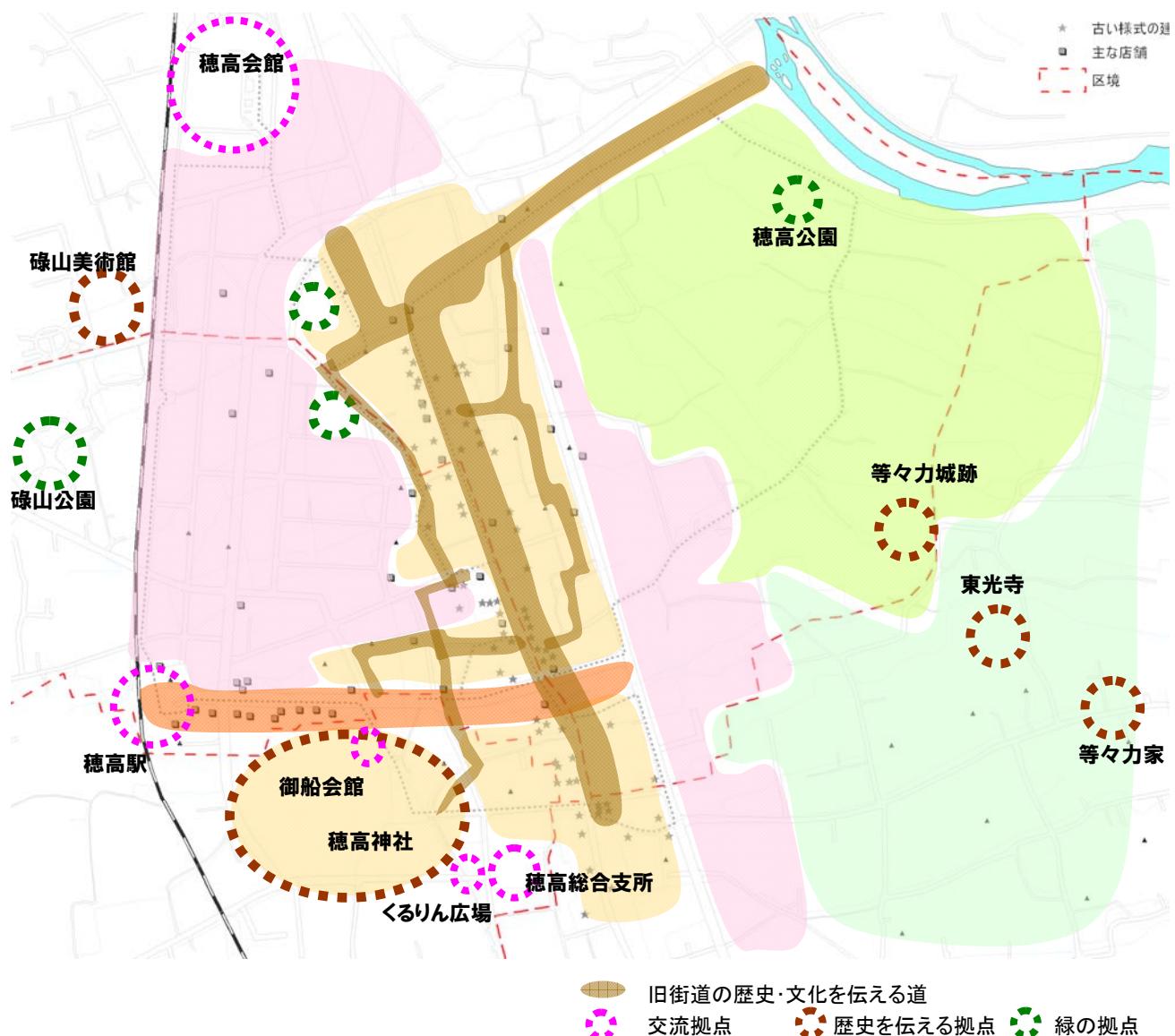
旧宿場の面影を残す空間
(大正時代から続く道沿いの空間)

わさび畑・樹林・水田が一帯のエリア

水田耕作主体の田園集落

主に戦後形成されてきた市街地

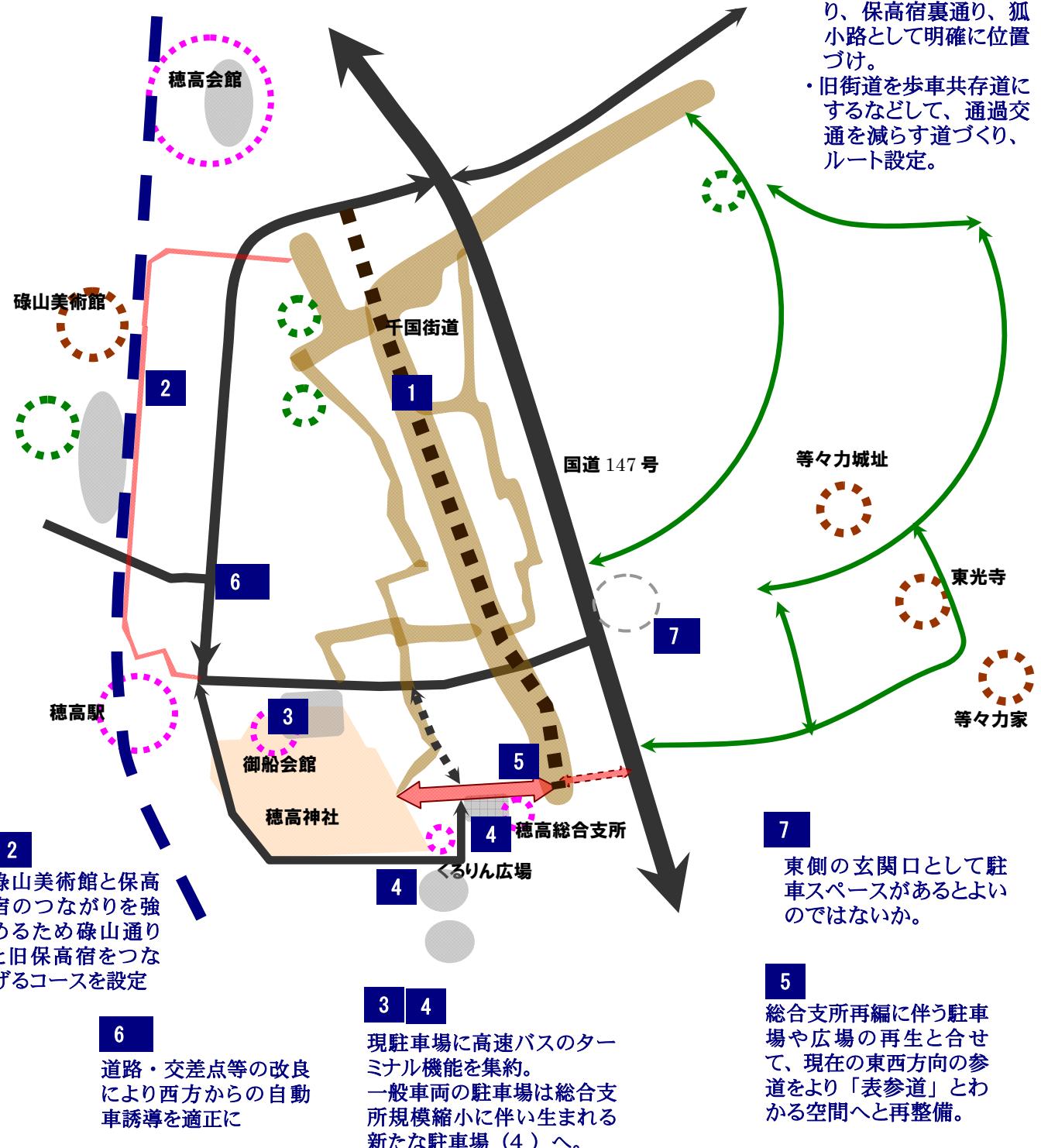
穂高駅前の買い物エリア



対象エリア一帯のゾーン区分

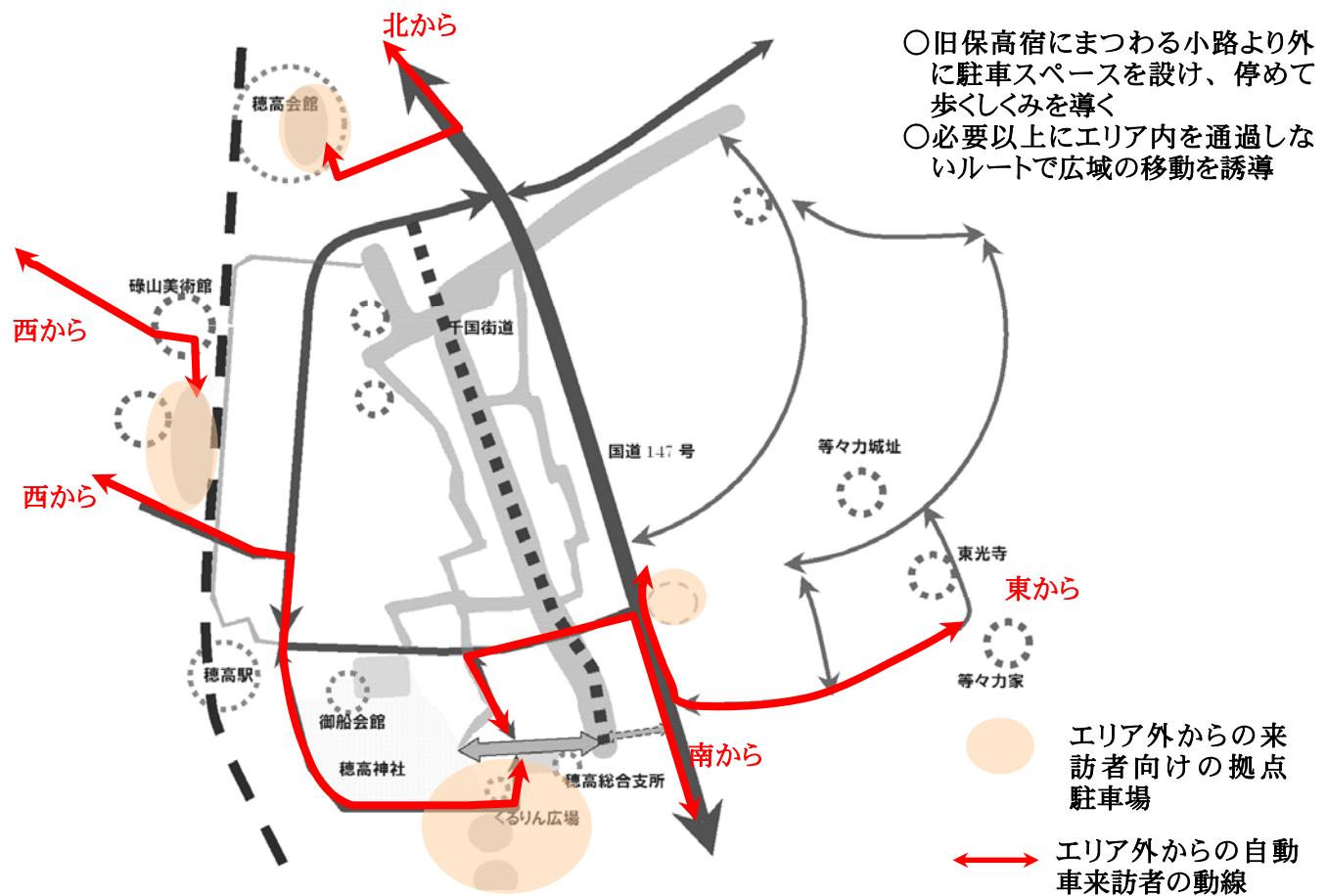
■拠点と動線

面の広がりを保ちながら、そのなかにある拠点やみどころをつなぐ動線や車を停める場所に工夫を加えることで、移動のしくみを変え、回遊できる回廊のまちづくりを進めることを提案します。

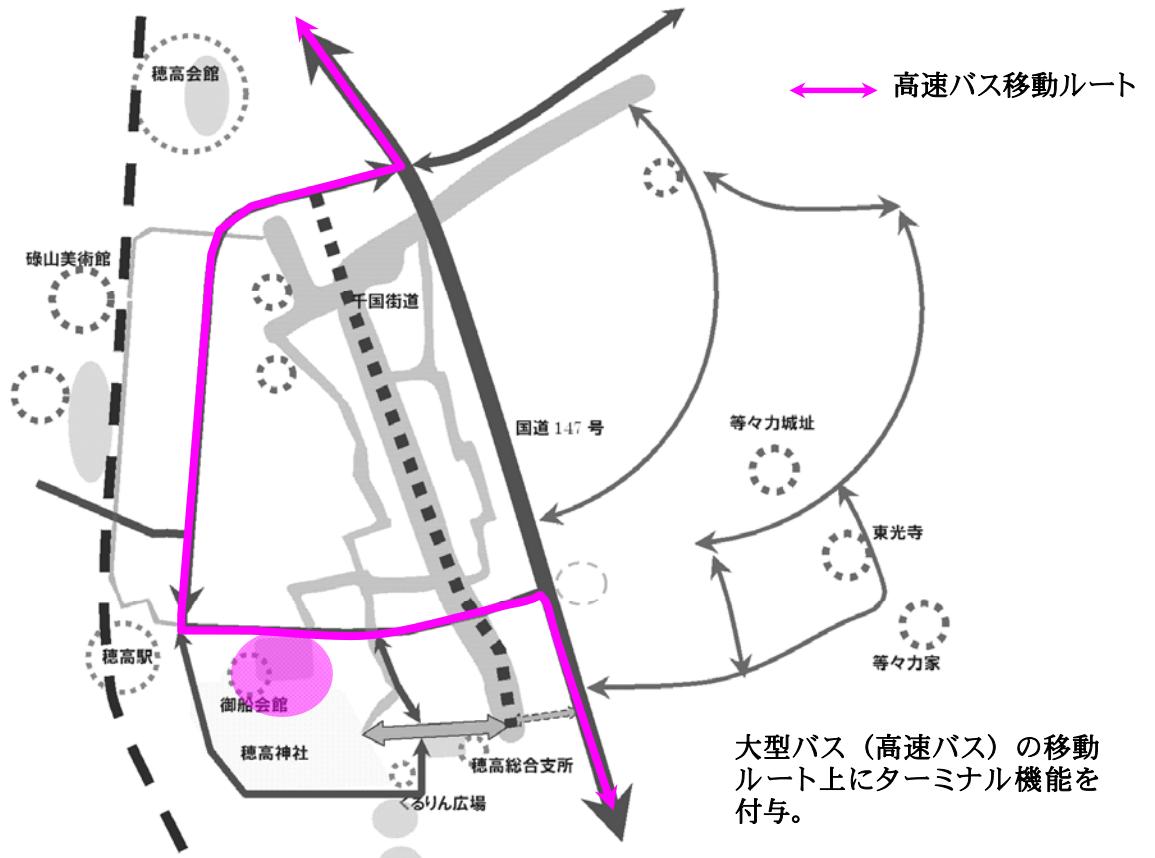


将来の動線整備の提案

【エリア外からの自動車での来訪者の動線】

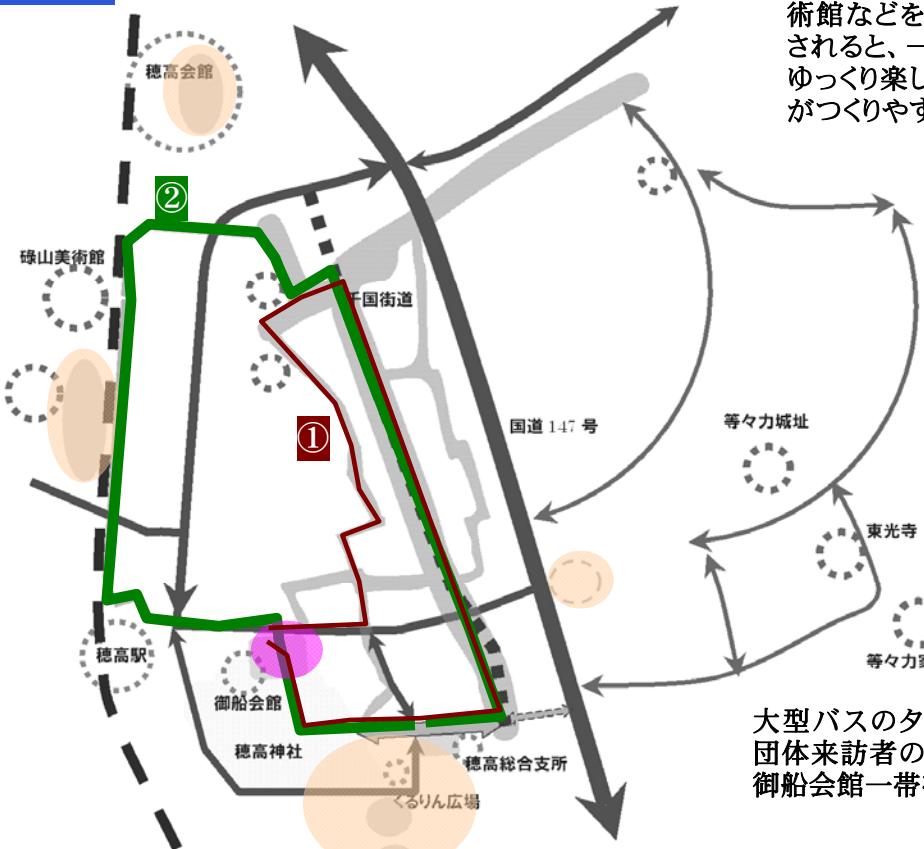


【高速バス動線】



【来訪者の動線：駐車スペースから歩くコース】

短時間コース

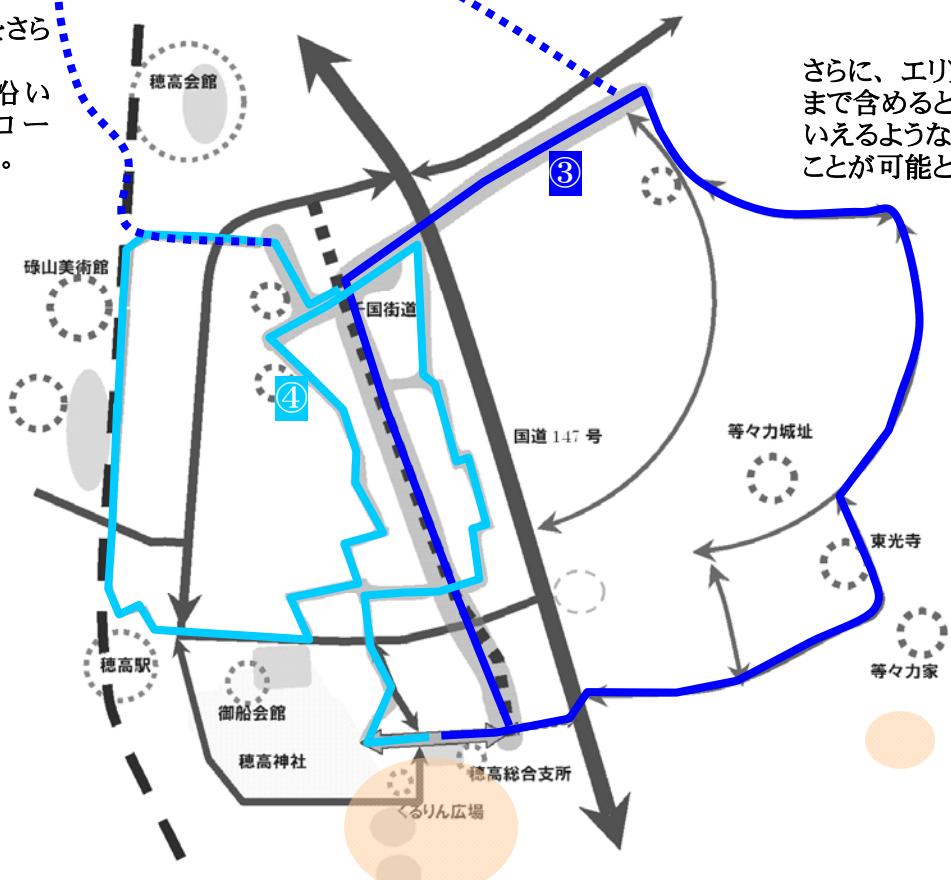


エリア外からの来訪者向けの拠点駐車場

大型バスのターミナルからの団体来訪者の出発拠点として御船会館一帯を活用。

長時間コース

旧街道をさらに北へ。
穂高川沿いを巡るコースも可能。



エリア外からの来訪者向けの拠点駐車場

4.4 まちづくり 10 の提案

1. 歩いてゆっくり暮らして楽しめるまちづくり

■提案1 停めてゆっくり移動するしぐみ、しあげづくり【関連：A2 B4】

- ・車で訪れても、車を降りて「ゆっくり」移動するまちへ
- ・駐車場の整備、ルートの明確化
- ・駅前空間、高速バスターミナル空間の整備

■提案2 散策ルートを整備【関連：A3・A4】

- ・穂山通りを活かしたまちの歴史資源をめぐる楽しみ・コースの設定
- ・保高宿外周の自然豊かな空間を満喫できる回廊
- ・案内サインの充実

■提案3 穂高神社の表参道再生【関連：B4】

- ・国道147号から穂高神社の社殿に向かう東西方向の参道の再生
- ・支所建て替えに合わせた湧水公園、駐車場整備と参道の再生

■提案4 千国街道の再生【関連：A2】

- ・千国街道をもっと安心して歩ける空間に

2. 暮らしと共存する宝を受け継ぐまちづくり

■提案5 拠点、交流ポイントの確保【関連：B3・B5】

- ・旧街道沿いの古民家を活用した活性化拠点づくり
- ・土蔵の活用
- ・まちなかの交流にあわせて2公園をリニューアル

■提案6 楽しく気軽に参加・新たな交流が生まれる取り組み【関連：B2・B5】

- ・地区的祭り、既存の行事への参加促進の工夫
- ・新たなイベント

■提案7 新たな賑わいのためのしぐみ・しあげ【関連：B2・B3】

- ・空家、空店舗の活用、支援、助成
- ・まちゼミなどまちおこし活動

3. 魅力を高めるまちづくりと人づくり

■提案8 歴史文化遺産の保全とまちづくり【関連：B1・B2】

- ・古い文化的資産の保存のための調査、補修
- ・まちなみ修景への助成
- ・道祖神や歴史的建造物のライトアップ
- ・山並みを意識した軸線の定めたまちなみの修復・整備

■提案9 まちなみ水辺の創出【関連：A1】

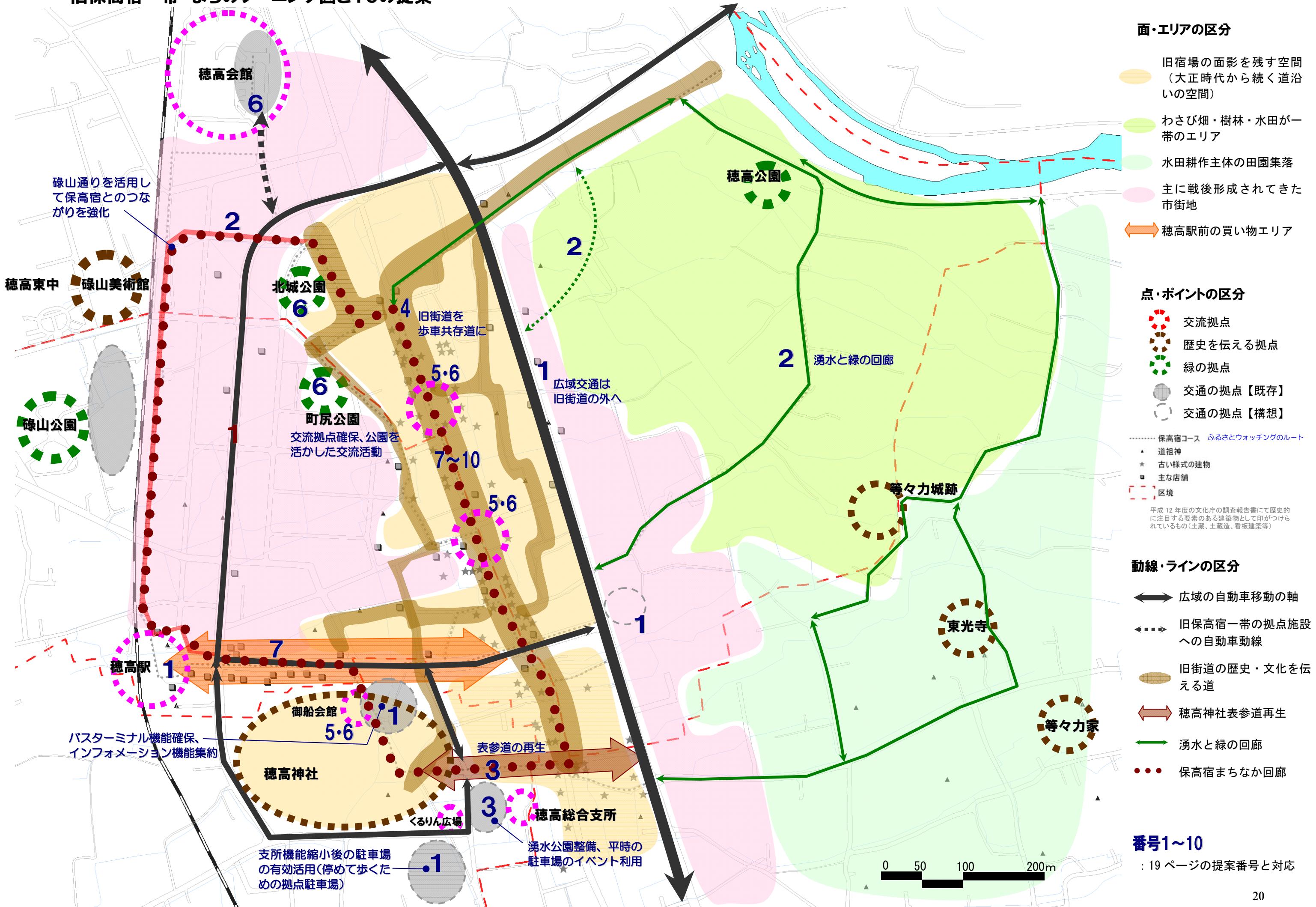
- ・旧街道沿いの一部に水に親しめる空間を創出
(足水・足湯 ポケットパーク 水路再現)

■提案10 魅力を伝えるしぐみ・語り部の育成【関連：A3・B5】

- ・子供たち、次世代に伝える学習や体験を通じ、ゆっくりの楽しみを発信
- ・隠れたものを掘り起こす「保高宿物語」づくりの活動
- ・保高宿の魅力を伝える人・語り部の育成

注) (A1～B5) は7ページにまとめた工夫のグループの番号

旧保高宿一帯 まちのゾーニング図と10の提案



4.5 今後のまちづくりの進め方への提案

9回のワークショップと、フォーラムを経て、今後の取り組み方について、ワークショップの過程でも取り上げられた、ハードとソフトの視点にたって、提案をまとめます。

■ 具体的な取り組みの展開イメージ

ワークショップの過程で出されたソフトとハードに関する提案（7ページ）を、次のような段階に区切って進めることが必要になると考えます。

段階1：保高宿物語の掘り起こしと物語を展開するしきけづくり

流れる歴史のなかにいるまちとして、それぞれの時代のもつよさを掘り起こし、伝え残せるしきけや仕組みを生み出す

【ハードに関する主な取り組み】
宿場の名残を残すための調査
ハード整備の具体化、しくみやしきけも含めた検討

【ソフトに関する主な取り組み】
懐かしいもの、話の掘り起こしを通じた関心のある方の結集
人が集い、いきかう機会の増加

段階2：参加・連携を通じた保高宿への愛着

しきけや仕組みを通じてより多くの人々が旧保高宿へ関心をもち、様々な主体が連携して、まちをよくする「まちづくり」や活動に参加し、懐かしさを味わいながらまちへの愛着を高める

【ハードに関する主な取り組み】
公的な空間の整備
既存施設を活用した交流拠点
参道整備など

【ソフトに関する主な取り組み】
関係者の結集（継続的な活性化の組織づくり）
店舗活用面での新たなしきみ

段階3：心地よくすごせる、暮らせるまちへ

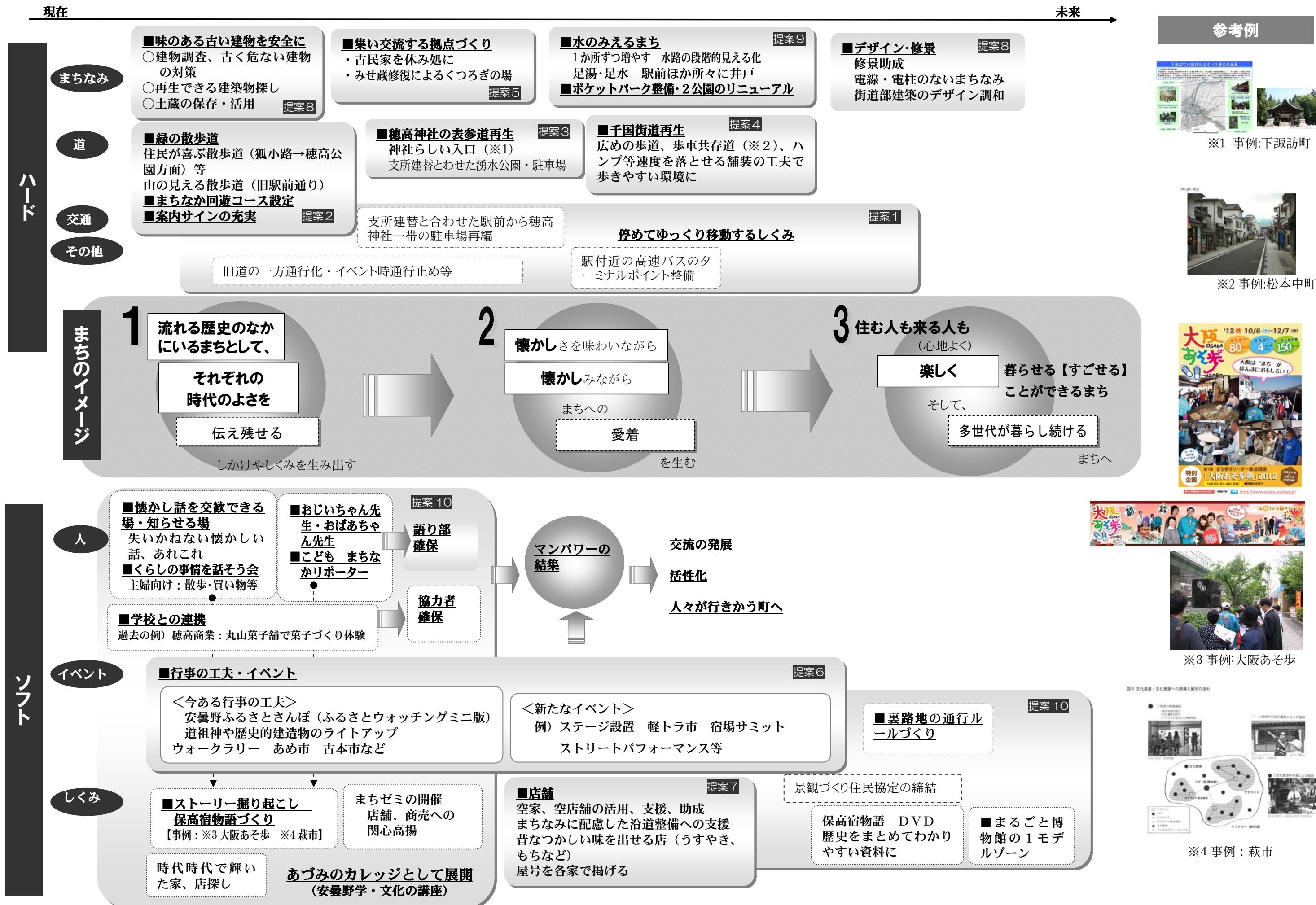
住む人も来る人も心地よく、楽しくすごせる、暮らせるまちへ、そして多世代が暮らし続けるまちへ

【ハードに関する主な取り組み】
水路復元などより魅力を高める施設の整備
個々の住宅などのまちなみ整備

【ソフトに関する主な取り組み】
これまでの行事の拡大、新たなイベントなどの充実
訪れる人向けのルールづくり等

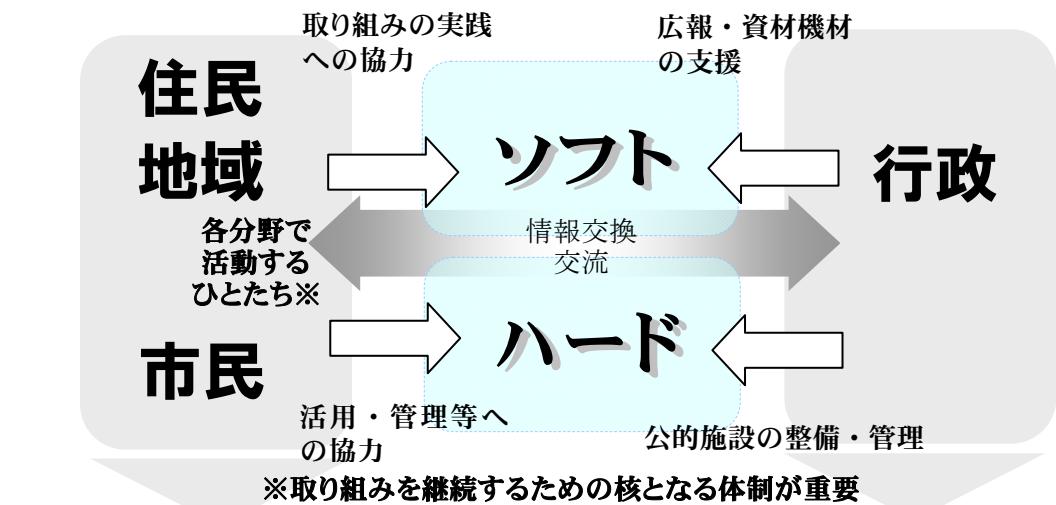
以上3つの段階に分けて、ワークショップでの提案を整理した図を、次のページにまとめます。

考えられる「今後のまちづくりの工夫」を効果的に展開させていく提案



■ 進めるための枠組みと当面（第1段階）の取り組み

これまで掲げてきた提案を実現させていくには、下図に示すように、行政と地域・住民とが双方の役割を十分に認識して、協働で必要な取り組みや活動を進めていくことが重要です。私たち市民は、ソフトの取り組み実践への協力、ハードの活用・管理等への協力が重要な役割になると考えます。



推進体制構築

■歩いて楽しいまちづくりプロジェクト他による連携体制の強化

歩いて楽しいまちづくりプロジェクト等の市民と行政による協働のまちづくりの考え方沿った取り組みを、相互に連携して実践できるよう、体制や連携のしくみをより密なものに。

■既存制度等の有効活用

当面の課題を解決するために活用の可能性の高い景観法、登録文化財指定などの制度活用をより積極的に。

■専門部署の設置

ハードとソフトを融合させ、効果的に市街地の活性化に資する専門部署（まちなみ整備等の担当セクション）の設置を。

ソフト

■あづみのまちなみカレッジの開講

まち歩きや宝さがし、あめ市、古本市など保高宿での取り組みを年間通じたまちなみ大学のイメージで運営。

ハード

■古い建物に関する実態把握・荒廃防止対策

市民・行政の協働で、古民家の調査等を実施。その価値や所有者の意向を把握する調査へと発展。

■交流の拠点形成

市民・行政の協働で、広場や空き店舗などを有効に活用した交流の場づくりを展開。まずは、推進のための制度やしくみ、活用方策の具体化から。

■散歩道の整備・駐車場整備

散策のための案内・サインの充実、穂高総合支所の規模縮小に伴う広場等の整備

■表参道の再生

穂高神社の東からの参道一帯の整備

ハード整備への提案

現地での踏査や、ワークショップでの提案、一帯の将来の関連事業の動向などをふまえ、近い将来の実現を目指すと効果的と考えるハードの整備についての提案をまとめます。

2 : 碓山美術館と保高宿のつながり向上
・碓山通りから旧保高宿への案内誘導
・交差点の横断部の安全確保等

碓山美術館

8 . 公園の活用
北城公園
北の玄関口としてのしつらえに再生・案内ポイント機能強化

町尻公園
7 の拠点ではできない野外のイベントなどの拠点として活用

6 道路・交差点等の改良により西方からの自動車誘導を適正に

西からの自動車来訪者を保高宿界隈へ秩序立てて誘導するための踏切部・必要な歩道設置、交差点の改良。

3 , 4 現駐車場に高速バスのターミナル機能を。
土産物、販売所など団体利用向けの離合集散の機能を集約。
案内、情報発信機能の拡充。

穂高会館

千国街道

1 : 歩車共存道
△車が申し訳なく通つてもらえるよう空間「保高宿通り」へ。

7 . 古民家を活かしたまちなか拠点の確保

5 . 千国街道沿いの古い建築物の継承

古い建物の安全性の調査
所有者の意向把握
景観重要建築物制度の活用

10. 蔵を活かした広場的な利用拠点の形成

等々力城跡

11. 西側の山並みを活かしながら旧駅前通りの復活
(火の見櫓、常念岳等のみどころ)

B 東の玄関口となる駐車場

歩いてまちなかを楽しむきっかけをつくりだす(国道東側に駐車場。交番もあり案内、安全管理も効果期待)

東光寺

9 , A 穂高神社の表参道空間の整備
(表参道部の拡幅、歩道設置、沿道景観修景、駐車場整備)
支所規模縮小に伴い、自由度が増す既存駐車場を、保高宿エリアの入口駐車エリアとして位置付け再整備。

穂高神社

くるりん広場
穂高総合支所

- ★ 古い様式の建物
- 主な店舗
- 区境



旧保高宿通り まちなみ整備将来イメージ図 (川上恵一氏)